

第4学年 道徳科学習指導案

い組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指導者 永 田 佑

1 主 題 名 だれに対しても

C「公正，公平，社会正義」 誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは，これまでに，学校や日常生活などにおける様々な人々とのかかわりの中で，誰に対しても分け隔てをしないことで，自他共に快い気持ちになり，気持ちよく生活できることにつながることを理解し，公正，公平な態度で接しようと努力してきている。しかし，自分本位な考えや好悪の感情などから，公正，公平な態度で接したいと思いつつも，相手によって態度が変わり，不公平な態度で接してしまうこともある。このようなことから，この期の子どもたちに，相手によって態度を変えず，誰に対しても同じように接しようとするのが，互いに気持ちよく生活を送ることにつながることを理解させ，誰に対しても分け隔てをせずに，公正，公平に接しようとする態度を育てる必要がある。

そこで，本主題では，相手によって態度をかえてしまう場面で生じる心情や心情の変化を，自らの体験場面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して，自分の見方や考え方にとらわれず様々な状況や立場で物事を考えることの大切さを理解し，誰に対しても分け隔てをせずに，公正，公平な態度で接しようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには，誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接しようとする生き方は，みんなが明るく気持ちよく過ごせることにつながることを実感し，これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

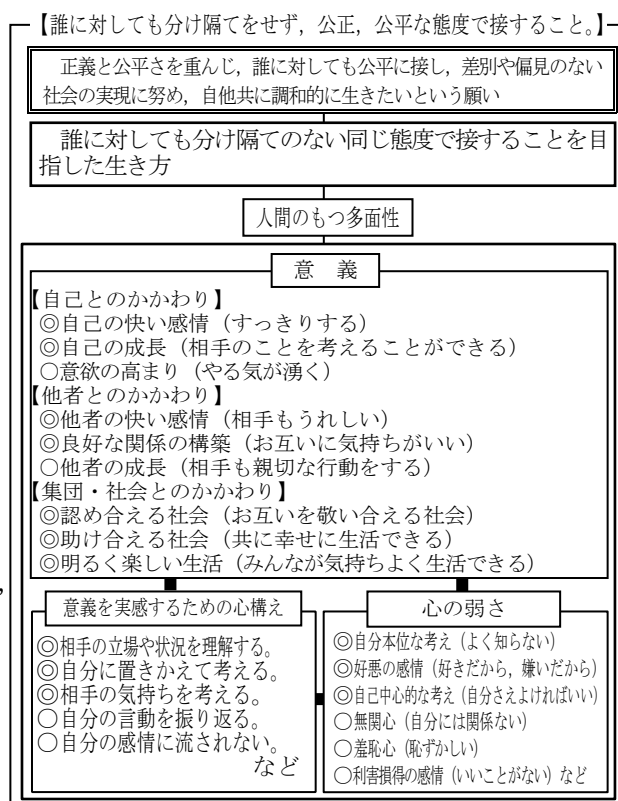
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は，誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めようとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接しようとするについて，道徳的価値のもつよさや意義に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接しようとするとは，自分の感情に流されたり，相手の立場や状況によって態度を変えたりせず，誰に対しても同じように接すること，そのことによって，お互いに快い気持ちになることと捉えることができる。

ここでは，正義と公平さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努め，自他共に調和的に生きたいという願いを基に，誰に対しても分け隔てのない同じ態度で接することを目指した生き方とし，その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さから，価値理解及び人間理解を深めて



◎は重点的な学習内容

いくことになる。

具体的には、誰に対しても分け隔てのない同じ態度で接することで、自分がすっきりしたり自己の成長につながったりすることや、相手も快い感情になり、みんなが助け合ってお互いに認め合える生活を築いていくことができるようになることなどの意義を理解させる。それらの実現に必要な心構えとして、相手の立場や状況を理解する、相手の気持ちを考える等が大切であることも理解させる。さらには、意義や心構えの理解を深めるために、誰に対しても分け隔てのない同じ態度で接しようと思いつつも、自分本位な考えや好悪の感情などの心の弱さから、なかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物教材「ヘレン・ケラー物語」(学研教育みらい)を取り上げることにした。この教材は次のような粗筋である。

目と耳が不自由なヘレン・ケラーがサリバン先生との出会いを通じて「言葉」を知り、喜びを感じる。その後、様々な学びを経て、多くの場所で「障害は不便です。でも、不幸ではありません。」と訴え、一人一人が生き生きと幸せな生活を過ごせる社会を目指した実話を基にした内容である。

この教材を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を関係付けて類推させながら、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために教材の一読から、自分と違う立場や状況にある相手に対して、偏った見方や考え方をしてしまう場面で、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することがなぜ大切か、どのようなよさがあるか(意義・心構え)を多面的・多角的に追究させる。その際、自分の生活の経験における心情と関係付けながら、主人公の生き方と重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究し、多様な道徳的価値観を受容する学び合いを取り入れる。さらには、自分の考えていきたい問題についてまとめていく中で、学習を通して変わったり確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、相手のことを考えて、誰に対しても同じように公正、公平な態度で接することを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが自分の生き方についての考えを深めることにつながり、豊かな自分の生き方を追究し続けることになる。と考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)等についての認識は以下のとおりである。

〔表1〕公正、公平な態度で接することができた経験(総反応数55)とその時の感情(総反応数35)

経験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
みんなで仲良く遊ぶ、グループを作る	17	みんなで楽しく過ごしたい、優しくしたい	20
行事や係の仕事などで、みんなと協力して取り組む	15	みんなで頑張りたい	7
出会った人にあいさつをする	12	喜んでくれるかな	4
席を譲ったり、忘れ物を貸してあげたりする	11	大丈夫かな	4

〔表2〕公正、公平な態度で接することができなかった心情(総反応数42)

心情	反応数(人)	心情	反応数(人)
自分本位な考え(相手のことをよく知らない)	16	無関心(自分には関係ない)	5
好悪の感情(好きだから、嫌いだから)	12	羞恥心(恥ずかしい)	2
自己中心的な考え(自分さえよければいい)	6	利害損得の感情(いいことがない)	1

〔表3〕実践を支える見方・考え方・感じ方(意義)についての認識(総反応数126)

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対 うれしい、すっきりする	25	対 うれしい、すっきりする	26	対 気持ちよく過ごせる	16
自 友達が增える、仲が深まる	15	他 気持ちよく過ごせる	18	自 よい関係になる	15
己 自己の成長につながる	3	者 自分もやろうと思う	3	共 よいことが広がる	5

〔表4〕 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識（総反応数 42）

見方・考え方・感じ方	反応数 (人)	見方・考え方・感じ方	反応数 (人)	見方・考え方・感じ方	反応数 (人)
優しくしたい, 仲良くしたいという気持ち	18	仲間外れにしない, 区別しない	9	もし, 自分だったらと考える	1
相手の気持ちを考える	11	自分から行動しようという気持ち	3		

〔表1〕の「みんなで楽しく過ごしたい, 優しくしたい」「みんなで頑張りたい」等の感情が多いことから, 相手のことを考えて, 公正, 公平な態度で接することができた経験が多いことが考えられる。また, 〔表3〕から, 公正, 公平な態度で接することが「自分や相手, 社会全体が気持ちよく過ごせる」という意義につながっていると感じている子どもが多いことが分かる。その反面, 〔表2〕の「相手のことをよく知らないから」「好きだから, 嫌いだから」といった感情から, 様々な場面において誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接することの難しさを感じていることが分かる。さらに, 〔表4〕から, 「相手の立場や状況を理解する」「もし, 自分だったらと考える」といった相手の状況や気持ちを自分に置き換えて考え, 誰に対しても分け隔てのない同じ態度で接しようとする気持ちや考えをもっている子どもは少ない。

これらの実態から, 「相手の立場や状況を理解する」「自分に置き換えて考える」などの心構えや, 「自他共に気持ちよく生活できる」「お互いを認め合える」などのよさを関係付けて考えさせたり, 自分本位な考えで接することが望ましい結果につながらないことを関係付けて考えさせたりして, 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接するとは, どのようなことを深く追究させる必要がある。

一方, 道徳科において, 本学級の子どもたちは, 問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが, 主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え, 互いの考えを比較したり関係付けたりしながら, 道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め, 広げるまでに至っていない。そこで, 多様な道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方に触れさせていく際に, 自分の捉えを明確にさせながら, 互いの考えやその理由を交流させる必要がある。さらに, 学習を通して, 自分自身の見方等がどのように変わったか, その理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては, 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接することの生き方のよさを主体的に追究することを通して, 実感を深める中で, 子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が, これからの生き方へと連続し, 発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために, 誰に対しても同じ態度で接することについて, これまでの体験場面を振り返らせ, 疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり, ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために, 主人公が自分の生き方を発信していく場面に焦点化し, 多様な道徳的価値観を受容する学び合う活動を行う。その際, 子どもたちに, 主人公の生き方に対する感想を表出させることで自分の捉えを明確にし, それぞれの見方等を比較しながら, 話し合わせる。そして, 自分とは違う相手の状況や立場を, 自分のこととして考えて理解し行動することが, 互いに認め合い, 気持ちよく過ごせるといったよさにつながることに気付かせる。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め, これからの生活とのつながりを感じ, これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために, 自分の生き方を振り返らせる。その際, 教材中の主人公の考えや話し合い中の友達の考えなど, 自分が見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに, 自分のこれからの生活の中で生かせそうな場面を明確にし, その場面で大切にしたい気持ちや考えは何かを考えさせ, 見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することについて、「互いに認め合って生活できることにつながる」「自分だったら、と考える」といった気持ちや考えを自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。
- イ 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することにかかわる自分自身の生き方を見つめ、誰に対しても分け隔てのない同じ態度で接しようとする気持ちを高めることができる。

(2) 本時の展開に当たって

自らの生活場面と関係付けて自問自答しながら追究させるために、「もし、自分だったらどうするか。」と問い、「相手の立場や状況を考える」「自分に置き換えて考える」などの心構えや、「お互いを認め合える」「みんなが気持ちよく過ごせる」などの意義と関係付けて考えさせる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 すっきりする。 ↔ よく知らない。 だれに対しても同じように接するとは、 ということだろう。	(分) 7	○ 切実な問題意識をもたせるために、相手に対して分け隔てなく接することに対する捉えを挙げさせる。その際、「誰に対しても同じように接することができるか。」と問い、それらの疑問や矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2 教材「ヘレン・ケラー物語」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 (2) 主人公の生き方に対する捉えを基に、誰に対しても同じように接することについて、話し合う。 【主人公の生き方に対する捉えとその心情】 - 不自由なことを乗り越えて、自分の考えを堂々と伝えているのがすごい。 - 幸せな生き方を自分で見つけているのが、すごい。 【心の弱さ】 - 相手をよく知らないから、難しい。(自分本位な考え) - どうすればいいか、分からない。(好悪の感情) - 周りの目が気になる。(自己中心的な考え) 【心構え】 - 相手の立場や状況を理解する。 - 自分に置き換えて考える。 【意義】 すっきりする→相手が喜ぶ→お互いに気持ちがいい→互いに認め合える→みんなが気持ちよく生活できる など	14	○ 教材を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために、教材を一読する前に主人公であるヘレン・ケラーの挿絵を提示する。 ○ 教材一読後に感想を問うことで、主人公の生き方に対するそれぞれの捉えを表出させる。 ◎「ヘレン・ケラーの生き方を、どう感じただろう。」 ○「不自由なことがあっても、それを乗り越えているところがすごい」「自分の考えを堂々と伝えているところがすごい」「前向きに生きているところをまねたい」といったそれぞれの捉えを基に、多様な道徳的価値観を表出しながらか話し合う場を設定する。その際、主人公の生き方についての感想の理由まで問うことで、「自分には難しい」「どうすればいいか、分からない」といった心の弱さに共感させる。
見つける	3 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことを発表し合う。 相手のことを、もし、自分だったらと考えられたらいいな。	14	◎「もし、自分だったら、どうするだろう。」 ○ 道徳的価値のもつよさについての見方等を自分自身の生活場面と関係付けて捉えさせるために、「相手の立場や状況を理解する」「自分に置き換えて考える」などの考えと、互いに気持ちよく生活できることを自分の生活場面での経験を明らかにしながら話し合わせる。
深める	4 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 だれに対しても同じように接するとは、相手の立場に立って、よく考えて行動することだと思うな。	8	◎「今日学んだことの中で、自分が大切にしたいと感じたことや、新たに気付いたことは何ですか。」 ○ 新たに再構成された道徳的価値観を基に、自分なりの考えを端的にまとめさせる。その際、学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせて、振り返らせる。
見通す	5 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。